

第 14 章 著作（統一書名）典拠データ

この章では、著作（統一書名）典拠データセットに登録すべき著作のデータについて、新規入力におけるデータ記入の方法を示す。

NACSIS-CAT で著作のデータを作成する対象は、当面は以下の資料とする。

- a) 日本、中国等の古典籍
- b) 聖典
- c) 無著者名古典
- d) 音楽作品
- e) その他識別する必要があると判断した著作

流用入力及び修正におけるデータ記入の方法のうち、それぞれの章で特に規定されていない事項については、この章の規定に従ってデータ記入を行う。

〔目録規則との関係〕

データ記入を行う際は「日本目録規則 2018 年版」（以下「NCR2018」という）に準拠する。

なお、準拠すべき条項であっても、「目録情報の基準 第 6 版」と相違する事項については、「目録情報の基準 第 6 版」に従うことに注意する必要がある。

（→ 第 51 章）

14.1.1 ID

14.1.1 A 〔形式〕

ID	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
データ ID	自動付与	固定長	10 バイト	1

14.1.1B 〔フィールド内容とデータ要素〕

ID フィールドには、目録システムがそれぞれのデータに対して付与した英数字 10 桁から成るデータ ID がデータ要素として記録される。

目録システムは、データ ID によってそれぞれのデータの管理を行う。

14.1.1C 〔データ記入及び表示例〕

データ ID は、目録システムに登録するタイミングで付与される。クライアントから目録システムに対して、新規作成典拠データが送信されると、目録システムは、新規に登録

されるデータに対して新たな ID を付与する。

データ ID は、クライアントごとに表示の仕方が異なるが、不等号(<)と(>)の間に表示されることが多い。

<EA0002136X>

データ ID は、目録システムが自動的に付与するものであり、目録担当者が入力することはできない。

14.1.2 MARCFLG

14.1.2 A 〔形式〕

MARCFLG	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
変更ありフラグ	自動付与	可変長	7 バイト	1

14.1.2B 〔フィールド内容とデータ要素〕

MARCFLG フィールドには、流用元参照データに対して定期更新時に何らかの修正が行われたことを示す英数字 7 桁から成るコードがデータ要素として記録される。

14.1.2C 〔データ記入及び表示例〕

変更ありフラグは、目録システムが自動的に付与するものであり、目録担当者が入力することはできない。

流用元参照データに対して修正が行われた場合

MARCFLG:arrived

流用元参照データが削除された場合

MARCFLG:deleted

流用元参照データに対して修正が行われていない場合は、このフィールド自体が表示されない。

なお、クライアントによっては、変更ありフラグが表示されているデータが修正された場合に、MARCFLG フィールドの表示を行わなくなるものがある。当該データに対して再度 MARCFLG フィールドが表示されるのは、流用元参照データに対して再び修正が行われた場合のみである。

14.2.1 HDNG

14.2.1A [形式]

HDNG	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
(Group Field) 典拠形アクセス・ポイント	必須 1	可変長		1
創作者に対する典拠形アクセス・ポイント、優先タイトル、識別要素*	(必須 1)	(可変長)	(254 バイト)	(1)
創作者、タイトルのヨミ	(必須 2)	(可変長)	(254 バイト)	(1)
創作者、タイトルのその他のヨミ	(必須 2)	(可変長)	(254 バイト)	(2)

*優先タイトルの記録は必須 1 とし、創作者（個人・家族・団体）に対する典拠形アクセス・ポイントと識別要素の記録は選択とする。

14.2.1B [記述文法]

記述文法については、「付録 6.6 著作典拠データの記述文法」を参照のこと。

14.2.1C [フィールド内容とデータ要素]

HDNG には、著作に対する典拠形アクセス・ポイントを記録する。

著作に対する典拠形アクセス・ポイントは、優先タイトルを基礎として構築する。

その形には、優先タイトルと創作者（個人・家族・団体）に対する典拠形アクセス・ポイントを結合した形と、優先タイトル単独の形とがある。前者を結合形、後者を単独形とよぶ。いずれについても、必要に応じて識別要素を付加する。

HDNG は一意的なものではなくてはならない。したがって名称等が一致するような場合は、何らかの識別要素を加えた形で記録する。

NCR2018 適用前に作成された典拠形アクセス・ポイントは識別要素の記述方法がさまざまだが、遡って修正は行わない。

単独形（聖典）	Bible. O.T. Isaiah
結合形（音楽作品）	Ravel, Maurice, 1875-1937 -- Sonatina, piano
結合形（音楽作品）	湯浅, 讓二, 1929- -- コンチェルティーノ, ピアノ, 管弦楽

C1 創作者に対する典拠形アクセス・ポイント

結合形を取る場合、創作者に対する典拠形アクセス・ポイントは、著者名典拠データの HDNG に規定するところに従う。

C2 優先タイトル

ここでは、HDNG フィールドに記録する典拠形アクセス・ポイントの決定に際して、著作の優先タイトルを判断する基準を示す。

C2.1 優先タイトルの選択

著作は、その著作の体現形または参考資料によって最もよく知られている原語のタイトルを優先タイトルとして選択する。

黒い雨

(当初は「姪の結婚」というタイトルで連載されていた井伏鱒二の著作)

黒船

(「夜明け」というタイトルでも知られている山田耕筰のオペラ)

最もよく知られているタイトルとして確立された原語のタイトルが容易に判明しない場合は、原版の本タイトルを優先タイトルとして選択する。

Harry Potter and the philosopher's stone

(英国版のタイトルは Harry Potter and the philosopher's stone、米国版のタイトルは Harry Potter and the sorcerer's stone。英国版を最初に入手した場合)

C2.2 活版印刷が主となる時代より前

活版印刷が主となる時代より前（日本では江戸時代まで、ヨーロッパでは 1500 年まで）の著作については、現代の参考資料において識別される原語のタイトルを優先タイトルとして選択する。参考資料に確定的な形がない場合は、著作の新しい版、古い版、手稿の複製の順に、よく見られる形を優先タイトルとして選択する。

春色梅児誉美

Π ρ ο β λ ή μ α τ α

C2.3 音楽作品名

音楽作品のように、著作の言語により判断できない場合は、当該作品のよく知られた名称の言語を考慮し判断する

14.2.1D 〔データ記入及び記入例〕

D1

名称は、資料に顕著に表示されている文字の形で記録する。

D2

創作者に対する典拠形アクセス・ポイントとタイトルの間には、スペース、ハイフン、ハイフン、スペース (△--△) を記入する。

D3

無著者名古典を含む古典作品名からなる著作で、他の典拠形アクセス・ポイントと区別したり、さらに敷衍する必要がある場合には、識別要素を記録する。著作に対する典拠形アクセス・ポイントにおける識別要素は、タイトルに続けて丸括弧(())内に記録する。

D4

著作に対する典拠形アクセス・ポイントのヨミ及びその他のヨミの表記方法については、「目録情報の基準 第6版」の11.3(ヨミの表記及び分かち書き規則)による。ただし、創作者に対する典拠形アクセス・ポイント及び創作者に対する典拠形アクセス・ポイントのヨミの形は、著者名典拠データの HDNG に規定するところに従う。名称全体がローマ字、カタカナ、数字で表記されている場合は、名称のヨミを記録する必要はない。また、識別要素のヨミは記録しない。

D5

著者アクセス・ポイントのヨミとタイトルのヨミとの間には、スペース、ハイフン、ハイフン、スペース(△--△)を記入する。

HDNG:細川, 俊夫, (1955-) -- 時の果てへ||ホソカワ, トシオ -- トキノハテエ

HDNG:武満, 徹, (1930-) -- Asterism||タケミツ, トオル -- Asterism

(作品名がローマ字、カタカナ、数字で表記されている場合)

D6

国文学研究資料館「国書データベース」に収録されている日本語の古典作品は、同データベースの著作レコード中の「統一書名」をそのままタイトルとして採用する。併せて、識別要素として「KOTEN:」に続けて同レコード中の「著作 ID」(著作レコード番号)を記録する。この識別要素は識別の必要の有無にかかわらず記録する。

同データベースの著作レコード中にフィールド「著者」が存在する場合は、「著者」を最初の識別要素としてまず記録し(記録方法は前項に従う)、続けて「著作 ID」を記録する。「著者」名と「著作 ID」の間には、スペース、コロン、スペース (△:△) を置く。

なお、「国書データベース」の著作レコードでは資料に示された著者名形(「作品著者名」とアクセス・ポイントに相当する「統一著者名」の形が異なる場合があり、その際

は「作品著者名」の後ろに、「統一著者名」の形を丸括弧(())に入れて付記する形をとっている。そのような形の著作レコードを元に著作典拠データを作成する場合は、著作典拠データの識別要素には「統一著者名」を採用して記録する。

タイトルのヨミについては、「目録情報の基準 第6版」11.3.3によって分かち書きを行う。

(例)

HDNG:水無瀬三吟百韻(宗祇, 肖柏, 宗長 : KOTEN:505191)||ミナセ サンギン ヒャクイン

* 「国書データベース」の著作レコード

著作 ID:505191

統一書名:水無瀬三吟百韻 (みなせさんぎんひゃくいん)

著者:宗祇

肖柏

宗長 (「著者」の数が同一役割で3までの場合)

(例)

HDNG:古今和歌集(紀友則 [ほか] 撰 : KOTEN:2664)||コキン ワカシュウ

* 「国書データベース」の著作レコード

著作 ID:2664

統一書名:古今和歌集 (こきんわかしゅう)

著者:紀/友則

紀/貫之

凡河内/躬恒

壬生/忠岑 撰 (「著者」の数が同一役割で4以上の場合)

(例)

HDNG:古事記(太安麻呂編 : KOTEN:2880)||コジキ

* 「国書データベース」の著作レコード

著作 ID:2880

統一書名:古事記 (こじき)

著者:太/安万侶 (太/安麻呂) 編

(作品著者名と統一著者名が異なる場合。「太/安万侶」が作品著者名、「太/安麻呂」が統一著者名)

(例)

HDNG:江戸名所図会(斎藤長秋著 ; 長谷川雪旦画 : KOTEN:14324)||エド メイショ ズエ

* 「国書データベース」の著作レコード

著作 ID:14324

統一書名:江戸名所図会 (えどめいしよづえ)

著者:松濤軒／斎藤／長秋（斎藤／長秋）著

長谷川／雪旦 画

（「著者」に複数の役割がある場合。なお、「松濤軒／斎藤／長秋」が作品著者名、「斎藤／長秋」が統一著者名）

D7

楽曲形式名からなるタイトルの場合、当該楽曲形式名称の日本語形に必要な識別要素を付し記録する。

楽曲形式名には付録 3.1「楽曲形式名名称」に定める日本語形を使用する。

HDNG:伊福部, 昭(1914-) -- ソナタ, ヴァイオリン, ピアノ||イフクベ, アキラ -- ソナタ, ヴァイオリン, ピアノ

D8

必要な識別要素のうち、演奏手段には付録 3.2「楽器(群)名称」に定める名称を使用する。

D9

音楽作品に対する著作の典拠形アクセス・ポイントで、次のものに対応する集合タイトルをタイトルとすることができる。

- 1) 作曲者の全作品
- 2) さまざまな楽曲形式、演奏手段の複数の作品
- 3) 特定の楽曲形式、演奏手段の複数の作品

HDNG:山田, 耕筰, 1886-1965 -- 全集||ヤマダ, コウサク -- ゼンシュウ

14.2.1E (選択事項)

名称全体がローマ字、カタカナ、数字で表記されている場合であっても、名称のヨミを記録するかどうかは、各参加組織が自由に選択する。

14.2.1F 《注意事項》

F1

著作の言語、訳、刊年等は、典拠形アクセス・ポイントに含めてはならない。これらは、書誌データの UTL フィールドの「その他の情報」に記録する。

次のような典拠形アクセス・ポイントは、誤りである。

(誤)

HDNG:山田, 耕筰, 1886-1965 -- 全集(1989)||ヤマダ, コウサク -- ゼンシュウ(1989)

(誤)

HDNG:団, 伊玖磨, 1924- -- 夕鶴(歌劇). 英語ほか||ダン, イクマ -- ユウズル(カゲキ) エイゴ ホカ

F2

結合形のヨミは必ず創作者に対する典拠形アクセス・ポイント及び優先タイトル両者に対応して付ける。

創作者に対する典拠形アクセス・ポイントが漢字等で、タイトルがローマ字、カタカナ、数字で表記されている場合でも、創作者に対する典拠形アクセス・ポイントに対応するヨミとともに、タイトルに対応するヨミも省略せずに記録する。

次のような典拠形アクセス・ポイントは、誤りである。

(誤)

HDNG:武満, 徹, 1930- -- Asterism||タケミツ, トオル

14.3.1 SF

14.3.1 A〔形式〕

SF	入力レベル	属性	フィールド 長	繰り返し数
(Group Field) から見よ参照	選択	可変長		32
統一標目形フラグ*	(選択)	(固定 長)	(1 バイト)	(1)
名称	(必須 1)	(可変 長)	(254 バイ ト)	
識別要素	(必須 2)	(可変 長)		
名称のヨミ	(必須 2)	(可変 長)	(254 バイ ト)	(1)
名称のその他のヨミ	(必須 2)	(可変 長)	(254 バイ ト)	(2)

*統一標目形フラグは、使用しなかった目録規則に基づく標目形を記録する必要がある場合に記録していたが、NCR2018 適用以降は和洋の目録規則を統一したため記録しないこととする。

14.3.1 B〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.6 著作典拠データの記述文法」を参照のこと。

14.3.1C [フィールド内容とデータ要素]

SF フィールドには、典拠形アクセス・ポイントとして採用しなかった異形アクセス・ポイントを記録する。

異形アクセス・ポイントには、異なるヨミによる別形、異なる字体による別形、あるいは典拠形アクセス・ポイントには採用しなかった同一著作のタイトルを記録する。

ただし、その他のヨミについては、本項では取り扱わない。関連する各コーディングマニュアル等を参照のこと。

HDNG: Amitāyurdhyānasūtra

SF: 観無量寿経||カン ムリョウジュ キョウ

14.3.1D [データ記入及び記入例]

D1 異なるヨミによる別形の記入

ある名称に対して、HDNG に記録された名称のヨミとは異なるヨミが存在する、あるいは知られているような場合は、それぞれのヨミを記録することができる。

HDNG: 源平盛衰記||ゲンペイ セイスイキ

SF: 源平盛衰記||ゲンペイ ジョウスイキ

D2 異なる字体による別形の記入

例えば新字体と旧字体、正字体と俗字体といったような字体の差異によって複数の表記形が存在するような場合は、HDNG に採用しなかった字体を SF フィールドに記録することができる。

また、漢字形に対して、他にローマ字翻字形やその他翻字形が存在するような場合はその表記形を記録することもできる。

HDNG: Tchaikovsky, Peter Ilich, 1840-1893 -- Pikovaiãdama

SF: Tchaikovsky, Peter Ilich, 1840-1893 -- Queen of spades

HDNG: 光崎検校 -- 夕の雲

SF: Mitsuzakikengô -- Yûbe no kumo

14.3.1E [フィールドの繰り返し]

から見よ参照が複数ある場合は、SF フィールドをその数だけ繰り返して、異形アクセス・ポイントを記録する。

14.3.2 SAF

14.3.2 A〔形式〕

SAF	入力レベル		属性	フィールド長	繰り返し数
	1)	2)			
(Group Field) からも見よ参照	選択		可変長		32
名称	(自動付与)	(必須 1)	(可変長)	(254 バイト)	(1)
識別要素	(〃)	(必須 2)	(可変長)		
名称のヨミ	(〃)	(必須 2)	(可変長)	(254 バイト)	(1)
名称のその他のヨミ	(〃)	(必須 2)	(可変長)	(254 バイト)	(2)
データ ID	(〃)	(不使用)	(固定長)	(10 バイト)	(1)

14.3.2 B〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.5 著者名典拠データの記述文法」を参照のこと。

14.3.2C〔フィールド内容とデータ要素〕

SAF フィールドは、著作の典拠形アクセス・ポイントを関連づけるために設けられたフィールドである。SAF フィールドには、相互参照先の著作典拠データの典拠形アクセス・ポイントを記録する。

相互参照先の著作典拠データとリンク関係を成立させた場合には参照先のデータ ID が含まれる。

その他のヨミについては、本項では取り扱わない。関連する各コーディングマニュアル等を参照のこと。

14.3.2D〔データ記入及び記入例〕

D1

相互参照先のデータとリンク関係を成立させる場合は、システムが自動的に参照先の典拠形アクセス・ポイント(HDNG)を SAF フィールドに埋め込むので、目録作成者は記録する必要はない。

HDNG: 竹取翁伝||タケトリ オキナ デン<EA00008736>

SAF: 竹取物語(KOTEN:5389) ||タケトリ モノガタリ<EA00008747>

NOTE: 竹取物語の祖形

D2

相互参照先のデータとリンク関係を成立させない場合は、目録作成者が参照先の典拠形アクセス・ポイントと一致した形を記録する。

HDNG: Merchant of Venice (Motion picture : 2004)

SAF: Shakespeare, William, 1564-1616. Merchant of Venice.

NOTE: Motion picture adaptation of (work): Shakespeare, William, 1564-1616. Merchant of Venice.

14.3.2E [フィールドの繰り返し]

からも見よ参照が複数存在する場合は、SAF フィールドをその数だけ繰り返して記録する。

14.3.2F 《注意事項》

F1

リンク関係を成立させない場合とは、参照 MARC には著作の典拠形アクセス・ポイントがあるが、総合目録データベースでは典拠形アクセス・ポイントが作成されていないような場合である。

F2

SAF フィールドに字体の相違、使用した言語の相違による異形アクセス・ポイント等、本来ならば別途に典拠データを作成しない形を記述してはならない。これらは、必要に応じて SF フィールドに記録する。

F3

SAF フィールドに対して、なぜ参照としたのか、どのような参照であるのかといった説明的文言、いわゆる「説明付き参照」は記録してはならない。これらは、必要に応じて NOTE フィールドに記録する。

14.4.1 NOTE

14.4.1A [形式]

NOTE	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
注記	必須 1	可変長	1024 バイト	128

14.4.1B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.6 著作名典拠データの記述文法」を参照のこと。

14.4.1C 〔フィールド内容とデータ要素〕

NOTE フィールドには、データ作成・修正等に関する各種情報を記録する。

NOTE フィールドは、他のフィールドには記録できないが、各参加機関が必要とする各種情報を記録するために設けられたフィールドである。

14.4.1D 〔データ記入及び記入例〕

D1

著作の典拠形アクセス・ポイントを決定し、典拠データ作成の根拠とした目録対象資料について、そのタイトル、出版者、出版年等の書誌情報を記録する。

また、国文学研究資料館の提供する「国書データベース」を根拠とした場合や、何らかの資料に拠ったのではなく推量による記述等の場合にも、その旨を記録する。

(例)

NOTE: 搜神記 / 干宝著 ; 竹田晃訳 (平凡社, 1964) による

(例)

NOTE: 国文学研究資料館「国書データベース」による

(例)

NOTE: アクセス・ポイントのヨミは推量による

D2

著作名典拠データの識別に有効な場合は、国文学研究資料館の提供する「国書データベース」の著作レコード中の「分類」「成立年」等を記録することが望ましい。

(例)

HDNG: 太平記(KOTEN:5298)||タイヘイキ

NOTE: 浄瑠璃

(「分類」が軍記物語や黄表紙の「太平記」ではない) "

D3

SAF フィールドに相互参照先のデータとリンク関係を記録する場合、関連指示子あるいはどのような関連かといった説明的文言を記録することが望ましい。

(例)

HDNG: 竹取翁伝||タケトリ オキナ デン<EA00008736>

SAF: 竹取物語(KOTEN:5389) ||タケトリ モノガタリ<EA00008747>

NOTE: 竹取物語の祖形